



宗四小だより

10月号

児童数456名

志木市立宗岡第四小学校

志木市上宗岡1-1-2

048-473-5250

<http://www.mune4syo.ed.jp/>

令和元年10月1日発行

学校教育目標 ○考える子ども ○思いやりのある子ども ○はたらく子ども ○じょうぶな子ども

「ノーサイド」



教頭 佐藤 寿朗

待ちに待ったビッグイベント「ラグビーワールドカップ日本大会」が開幕いたしました。この大会に向けてラグビー関係者は何年も前から、準備をしてきました。ワールドカップが日本で行われることで会場だけでなく、大型テレビを設置したファンゾーンやパブリックビューイングなど様々なところでラグビーを観る機会があります。ぜひラグビーを身近に感じてみてください。

さて、ラグビーという競技の特異な点について書いてみたいと思います。

団体競技で試合の終了を告げる場合、ホイッスルと共に「ゲームセット」と言う競技が多いようですが、ラグビーの場合「ノーサイド」と言います。最近まで放映されていたテレビドラマの題名も「ノーサイドゲーム」でしたが、「ノーサイド」とは、どういう意味でしょうか。

「サイドがない」こちら側と向こう側が無いつまり、「敵と味方の区別がない」ということです。なぜ、試合終了がノーサイドなのでしょう。

ラグビーは一歩間違えば大けがなどにつながる非常に危険を伴う競技です。それだけに、細心の注意を払いながら試合に臨みます。コンタクトプレー中心のスポーツだからこそ、試合に向けて「知力・体力・気力」を振り絞って練習を重ね、その日を待ちます。そして、危険を伴う試合に相手が応じてくれた事に、まず感謝をし、敬意を払います。お互い感謝と敬意を払うことで堂々と闘い、ラフプレーを嫌悪します。また、公平な立場で試合をジャッジしてくれるレフェリーにも感謝と敬意を払います。

そして、ひとたび激しい試合が終わればお互いのプレーを称え合います。敵味方の関係がなくなります。それが「ノーサイド」です。試合を観る者もサポーターやファンではなく、試合に立ち会う証人なのです。したがって客席はホームとアウェーに分かれず一緒に座ります。好きなチームの応援ではなく、試合を見届けて両サイドの良いプレーにみんなで拍手をします。観客席も含めて「ノーサイド」です。

このワールドカップをよい機会に「ノーサイド」の精神でお互いを尊重し合い、称え合える宗岡第四小学校になれば素晴らしいと思います。